

人権標語 最優秀賞
なくそうよ こそこそ話す いじめの種 小学校4年生 石川 零
自分から気をつけようよ 言葉の矢 小学校5年生 市川 悠乃
ぼくと君、生まれた日から平等だ 小学校6年生 市川 結悠
誹謗中傷 送るのは一瞬 後悔は一生 中学校3年生 森川 夏帆
みんなが笑顔になる魔法「ありがとう」 高校2年生 児玉 晴哉
その言葉、そのまま伝えて大丈夫？ 高校2年生 福本 萌

人権標語メッセージ最優秀賞
おうだんほどの前でパトロールの人がときどきいることがあります。 それでパトロールの人が「おはよう」と言ってくれました。 わたしも「おはよう」って言えました。わたしもいきもちになりました。 小学校2年生 稲見 優空
みんなで、あそぶ時に一人ぼっちにしない。毎日、友だちと会ったら、あいさつを友だちにきこえるぐらいの声で言う。毎日、休み時間に仲よく遊ぶ。 こまっている子がいたら声をかけてあげる。自分と友だちを大切にする。 小学校3年生 藤島 怜美
SNSが使えるようになった。いつでも会話できるようになった。指一本で。つまり、いつでも人を傷つけられるようになった。指一本で。 だから、考えてほしい。その言葉を送る前に。指一本で、誰かを傷つける前に。 中学校2年生 市川 夕楓
差別がなくならないのは、差別を他人事しているからだと思う。差別されている人がいても関わりたくないなど見て見ぬふりをするのではなく、私は自分の行動に意識し、差別を他人事ではなく自分事にすることが大切だと思う。 中学校3年生 坂口 大祐



人権標語 優秀賞
ひとりじゃないよ いっしょにいるよ 小学校1年生 市川 椿
ありがとう こころのなかが うれしいよ 小学校2年生 江川 航弥
さべつはね みんないやだよ 考えて 小学校3年生 門脇 彩智
本当に言って大丈夫？ 顔を見て。 小学校6年生 吉村 紗雪
その気持ち 自分の言葉で 言ってみて 小学校6年生 土井 佑月
もどらない 心に残る、深い傷 小学校6年生 伊藤 徠翔
ウイルスもいじめの声も見えない菌 中学校1年生 鈴木 陽葵
つなげよう いじめをなくす 声のバトン 中学校2年生 上田 星那
SNS そのつぶやきが ナイフになる 中学校3年生 市川 隼大
大丈夫 あなたは決して一人じゃない 高校3年生 位田 結実

人権メッセージ 優秀賞
差別やいじめはなぜあるのか。それはその人をあまり知らないからなのかもしれない。それならその人を知ればいい。仲良くなればいい。声をかければいい。自分から行動すればいい。そうすればいじめや差別がなくなる。 小学校5年生 市川 颯真
私がいやなことがあったとき、先生はしっかり真げんに聞いてくれました。私はその時とても安心しました。それから毎日楽しい日が続きました。私は安心して楽しい保々が大好きです。いやなことがあったら相談しましょう。 小学校5年生 伊藤 柚月
悪口。それは言葉の暴力、たとえ体のすり傷が治ったとしても心の傷は治らない。自分は人に暴力をしていないかな？相手の気持ちになった事はある？たとえ分からないとしても自分の言葉には気をつけて発言していこう。 小学校6年生 水谷 紗葉
人は言葉だけを使う。言うことは誰にだって出来ること。良い言葉を百、千回言おうが世界は変わらない。世界が新しく動き出すのは行動だけ。行動を変えれば何かが変わる。それはきっと次に繋がるタスキになるのだから。 小学校6年生 廣田 翔真
自分が発した何気ない言葉は、自分はどうも思わない言葉でも、相手は傷ついているかもしれない。でも言葉の受け止め方、感じ方は人それぞれ違う。言葉の重みを感じ、思いやりの気持ちを持って行動できる人になりたい。 小学校6年生 松本 拓輝

人権メッセージ 優秀賞
あなたの何気ない一言で相手の心はボロボロになってしまうかもしれない。学校に来れなくなる程、傷つくかもしれない。目に見えない人の心だからこそ言葉の1つ1つに気をつけ、考えて発言する事が大切だと、思う。 中学校1年生 太田 彩瀬
人権は生まれた瞬間からもらえる権利で人権をもっていない人はいないです。その権利を持ちながら成長していき人間関係が出来たりしてその中に色々な差別が生まれて苦しんでいる人もいるということを知ってほしい。 中学校1年生 瀬棚 桃羽
私は小学校の授業で、初めて部落差別を知りました。住むところだけで差別されている人がいるということに衝撃を受けました。自覚がないまま差別をしてしまわないためにも、正しいことを知ることが大切だと思います。 中学校2年生 山川 純礼
差別がなくならない理由の一つは、差別している側がそれは差別だと気づいていないからだだと思います。だから私は、周りに差別している人がいたら一方的に攻めるのではなくまず話を聞くことを意識していきたいです 中学校3年生 濱田 美緒莉
僕は人権学習を通して、「私は差別していないし」という無関心は、差別しているのと同じくらい悪いことだと思った。その無関心が差別をなくす行動になったら、差別はなくなっていくんだろうなと思った。まずは自分から。 中学校3年生 佐々木 悠哩
「大丈夫」って言う人は大丈夫じゃない。皆に心配かけないように隠してる。辛い時ほど、「辛い」や「助けて」って言えない。本当に辛い時は声があげられないくらい辛いから。それを気づいてあげられる人になりたい。 高校1年生 南部 朱里
差別は見よう、知ろうとしなければ気づけない。人権に関わるようになり多くの出会いがあり、周りの人を頼ることが出来るようになった。 まず気づき、正しく知り、周囲を巻き込んでいきながら、広げていきたい 一般の部 川北 直美